

特集「環境と資源から見る国際社会: 21 世紀の世界と日本」の序によせて

愛知県立大学外国語学部国際関係学科

亀井伸孝

今号では、「環境と資源から見る国際社会: 21 世紀の世界と日本」を特集します。これは、同名のテーマのもと、8回にわたって行われた、2015 年度愛知県立大学公開講座の記録でもあります。

本学の近隣に位置する長久手と瀬戸のふたつの会場で「愛・地球博 (2005 年日本国際博覧会)」が開催されたのは、2005 年のことでした。「自然の叡智」をテーマとして、121 カ国 4 国際機関が参加、会期 (3 月 25 日～9 月 25 日) の 185 日間に 2200 万人が来場して、盛況のうちに閉幕しました。

それから、早くも 10 年。万博の跡地は「愛・地球博記念公園 (モリコロパーク)」として生まれ変わり、土日を中心に子どもたちや市民が集う憩いの場となりました。万博の理念を継承する地道な活動が、市民や学生たちによって持続的に営まれています。万博開催に合わせて開通した「リニモ」は、本学関係者の通勤通学の足として、また長久手市を中心とする地域住民の日常の交通機関として、今日もその役割を果たしています。地域開発の重要な要因としての、この万博の存在を欠かすことはできません。

一方で、主題であった地球環境の方は、どうなっているのでしょうか。推計では、2005 年から 2015 年の 10 年間で、地球の人口は約 65 億人から約 73 億人へと、約 8 億人増加しました。この間、日本のみならず世界を震撼させたできごととして、東日本大震災と福島第一原子力発電所事故が発生しました。

地球温暖化対策としては、1997 年の「京都議定書」に続く新たな枠組み「パリ協定」が 2015 年に採択されました。依然として資源・環境問題の中心には化石燃料の使用や枯渇の問題がありますが、アメリカ発のシェール革命がエネルギー市場を大きく塗り替え、中東情勢を含む世界の政治経済の激変をもたらす兆しが見えます。

万博 10 周年を、一過性のお祭りで終えてしまうのではなく、本来の主題である私たち人間と地球の環境・資源をめぐって、来し方行く末に思いをはせつつ、グローバルとローカルの両方の視点と知識をもって学び直す機会としたい。今回の公開講座は、そのような思いとともに企画、開催されました。

外国語学部による企画担当の年に際し、同学部所属の亀井が全体コーディネータを担当しつつ、関連学術講演会を含めて 9 人の方による 9 件 (1.5 時間×9 回) の講演から構成される行事が実施されました。ご参加くださいました市民のみなさま、ご協力くださいました学内外の講師各位、研究支援・地域連携課職員各位に、この場を借りてお礼を申し上げます。

また、今回は本学公開講座における初の試みとして、事前告知の段階から「手話通訳の要望を受け付ける」旨の広報文を用意しました。複数のろう者の市民からの申込を受け、要望のなかった学術講演会を除くすべての講義に、手話通訳を配置することができました。派遣のご協力をいただいたあいち聴覚障害者センターおよび手話通訳者各位にも、謝意を申し上げたいと思います。

最後に、主催者である本学地域連携センターには、この学術講演会・公開講座関係のコンテンツを、本号特集として活用することの許可をいただきましたことを、謝意とともに記します。

【2015 年度公開講座実績】2015 年 12 月、愛知県立大学地域連携センターまとめ

公開講座に登録した市民：50 人。うち、3 回以上出席した「修了者」：25 人

授業登録した正規履修学生のうち 1 度以上出席した本学学生の数：27 人

単発で申し込んで参加した本学学生：のべ 9 人

各回の出席者人数 (上記学生含む)

学術講演会：202 人／1 回目：51 人／2 回目：48 人／3 回目：53 人／4 回目：44 人

全体計：のべ 398 人の参加